

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	33	・重度化した場合や終末期のあり方について、本人・家族に意向の確認をしたところ、ほとんどの方がグループホームでの看取りを希望されている。	・最後を迎える事は特別な事ではなく、誰にでも訪れる普通の事として捉え、その人らしい暮らしの延長線上で満足した最後を迎えられるように支援していく。	・入居時にその時点での重度化した場合や終末期の援助方法について意向を確認し、状態の変化に合わせ随時再確認を行う。 ・普段から本人の思いや希望を把握し、叶えられるように支援していく。 ・終末期に入ったら、本人や家族の意向を踏まえ多職種で連携体制作りを行う。 ・看取り後のカンファレンスでケアの振り返りを行い、次に繋がるよう話し合っていく。	12か月
2	49	・グループホームの中だけで過ごさず、出掛ける事を本人の楽しみや喜び、気分転換やストレス発散の機会として支援していく。 ・外出する入居者や行先等が固定化しないように、一人ひとりの習慣や希望に応じて個別の支援を行っていく。 ・重度化している場合でも本人の体調や移動に配慮をしながら、外出を支援していく。	・日常的に短時間でも戸外で過ごすことで季節を感じながら、穏やかに暮らすことができる。 ・外出の楽しみが本人の意欲や目標に繋がり、生活に張り合いができる。 ・外出により本人にとっての大切な人、場所、習慣との関係が継続できる。	・日常的に短時間でも戸外(テラス・菜園等)へ出て外の空気を吸ったり、日光を浴びたり、季節を感じられるよう支援する。 ・地域行事(秋祭り・敬老会・産業祭り等)、さくらんぼ狩り、外食、買い物等へ出かけ、馴染みの人や場所との関係が継続できるよう支援していく。 ・本人の思いに添って墓参りや習慣として参拝していた神社、懐かしい場所等へ出かけられるよう家族と相談しながら実現に向けて取り組んでいく。 ・歩行困難な方も車や車椅子を利用し、外出を支援していく。(現在、9名中3名車椅子、1名リクライ)	12か月
3	38	・平均年齢90.5歳。本来持っている生活のリズムや日々の体調に変化が見られる方が増えている為、一人ひとりの状態や望んでいるペースに合わせ、柔軟に支援する。	・一人ひとりの日々の暮らしをその人らしく過ごしていただけるように、本人が今日をどう過ごしたいか、その日の望みを大切に個別性のある支援を行う。	・一人ひとりのその日、その時の思いや望んでいるペースに合わせた暮らしの支援をする。 ・例えば、朝ゆっくり寝たい・夜遅くまでテレビやおしゃべりを楽しみたい・外出したい・今日は入浴したくない等、体調に配慮しながらその時の本人の気持ちを尊重した対応を行いながら、機能が低下しないよう声かけ等を工夫していく。	12か月
4					か月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。